

2019年3月11日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 511

大学と社会をつなぐ、つながるー

大学情報発信メディアの深化と実際

～ オウンドメディアの活用／電子出版の明日／ネット配信／メディアミックス ～

ご参画・ご派遣のお願い

【協力：大妻女子大学 人間生活文化研究所】

「メディアはメッセージである」は、マーシャル・マクルーハンの名言です。「情報を伝達するメディアそのものが、情報である」と。今日、情報を発信する手段はインターネット環境のなかで多様化の一途をたどり、「送り手」、「受け手」、そして「メディア」は種々に進化しております。しかし、マクルーハン理論を援用するならば、「どのメディアで発信するか」によって、その意味合いやインパクトは異なるといえましょう。

まさに“大学は総合メディアである”といえましょう。立地が地方圏であれ、規模が中小であれ、IT環境に制約はありません。ウェブサイトプラットフォームにブログやSNSも活用して、大学が有する知的諸資産を、受験者のみならず、国内外の全てのステークホルダーに広く発信していくことが可能です。

既にウェブサイトには、「Twitter」・「LINE」・「Facebook」・「Instagram」・「YouTube」等のアイコンが配置され、動画コンテンツも多用されております。アカウントやチャンネルも細分化し、それぞれ情報を発信しています。

また、メディアの活用は、教員・研究者にとっても喫緊の課題となっております。研究活動の成果をどのメディアでアウトプットするのか、これは過程や費用も大きく異なってきます。大学自身の研究情報も、どのように集約・公表し、運営していくかの手腕もまた、ブランディングや広報といった視点からも、今後より重要となるでしょう。

そのためには、大学・学園内のキラリと輝く情報を収集・取材し、分析・編集し、コンテンツ制作のプロデュース力への智慧と人財の投入が不可欠です。広く社会に大学情報を発信していくことは、次世代ネットワーク型高等教育への連携・協働の実質化となることでしょう。

本セミナーでは、大学メディアの取り組みの実践的な事例と活用について4名の講師に論展いただきます。

シンク・アップのプランナーの山下研一氏からは大学広報の第一線での長年の実績を踏まえ、オウンドメディアとは何か、その最新動向と検証、今後の大学広報とオウンドメディアの活用についてご講義いただきます。

大学出版部協会の黒田拓也氏からは、大学出版部の多様な事業形態やめざすものについて、デジタル化と学術情報、そして喫緊の問題である著作権法改正の影響についてもご講義いただきます。

大妻女子大学人間生活文化研究所所長の大澤清二氏からは、同研究所が運営する電子、“総合メディア”としてのジャーナルの運営、教科書・研究成果物の電子出版事業、研究支援活動等の研究所経営の先進的取組みについてご報告いただきます。

東洋大学入試部長の加藤健二氏からは、“紙から Web”への決断、徹底した Web 展開である「TOYO Web Style」の運用の実際と実績、発想の転換の成果について詳しくご講義いただきます。

つきましては、年度末のご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。
パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

<http://chiikikagaku-k.co.jp/kkj/seminar/190327.pdf>

※ 訂正とお詫び

本セミナーのパンフレット版におきまして、第2講の黒田氏の講義項目に誤りがありました。お詫び申し上げます。